

——今回のWBC不参加表明決定は、1年前からの主張が変わらなかつたという強い意思だったのでですね。

新井 今回は「苦渋の決断」でした。ファンの方もWBCを見たいと思いますし、選手たちも出場したかったという思いはあります。その中でこういう決断になったのはなぜか。それを皆さんにはこの場でぜひ理解してもらいたいです。

——昨年の選手会臨時大会後での決議後も、WBCIからはゼロ回答が続いていたのですね。

新井 はい、ゼロ回答のまま動いていません。しかもWBCIは今回の不参加について「NPBと選手会の中の内輪の問題だ。NPBからは出場すると聞いている」と。これはまったくの詭弁で、論点を逸らしています。

——MLBが主催するWBCは、やはりMLBの利益を追求していくことが大前提になっている部分もあります。

新井 WBCというのはMLBの利益のため以外の何ものでもないと思います。WBCIやMLB側は国際的な野球の普及のためにということ言っていますが、それもすべて詭弁。国際的な野球の普及のためにと言いながら、日本固有の権利をMLBが奪い取る構造になっている。ファンもそこは理解してほしいです。

——WBCIは、さまざまな理由を言って日本固有の権利である代表のスポンサー権を返還する話にも応じようとしていません。

新井 日本代表を応援したいというスポンサーが出したお金がMLBの球団や選手たちのものになるというのは誰が見てもおかしいことです。今の仕組みでは日本代表が強くなつてスポンサー料が上がれば上がるほど日本には還元されずにMLBが儲かるという仕組みになってしまっています。サッカーなどを見ても明らかのように、代表チームのスポンサー権はその固有の権利として認められるべきものです。

——一方で世論の中には、選手会はお金のために出ないと思っっている方もいます。

新井 われわれは「選手会にお金を下さい」とはひと言も言っていない。将来の野球界のためにNPBにその日本代表のスポンサー権を返してほしいと主張しているだけです。オリンピックやサッカーの国際大会と同じように、日本代表、NPBが本来持たなければいけない権利を返してほしいと言っているだけ。メディアの方にもそこを理解して報道してほしいんです。その中で、テレビ番組中に張本（勲）さんに選手会の決断に賛成していただけたことはうれしかったです。将来の野球界のことを考えていらっしゃる方々は絶対になれわれと同じ考え方になると思っています。目先の第3回大会のことだけを考えるのではなくて将来の野球

界のことを考えてこのような決断をしているのです。

——選手会の理念は、将来の野球界のためにというのがあります。その構想を成し得るためにはお金が必要だと思えます。だから将来のために必要な権利を得ようとしている、という、理念を前面に出しファンに理解をもらうという方法もあったと思います。

新井 お金が必要というよりも、本来、日本固有の権利であるはずの日本代表のスポンサー権が、MLB側に持って行かれてしまっているという常識に反する取扱いがされていることが本質的な問題だということです。それだけ非常識な大会だということが一番訴えたいことなのです。サッカー日本代表のスポンサー権が日本の権利として認められているのと同じように、野球の日本代表の権利もNPBに戻すべきだということを単純なことを言っているのです。

——その中で一番理解してもらいたい所がやはり「お金は選手会に入るのでなくNPBに入るんですよ」ということですね。

新井 そういうことです。本当はこの問題は選手会がやることではない。NPBがきちんとWBCIに対して発言すべきこと。加藤（良三）コミッショナーは「選手会を説得する」とおっしゃっていますが、それは間違っています。説得する相手はWBCIやMLBですよ。だからお会いしたら「説得する相手が違います

よ」と言いたいですね。

——今後実際に加藤コミッショナーとお話を持つ機会があると思えます。

新井 そのときには議論の観点を間違わないでほしいということは強くお伝えしたいです。WBCのスポンサー売上の半分以上は日本企業からのものです。つまりWBCは日本からの利益やお金で成り立っているわけ、それをWBCIは利用しようとしている。だからこそ、加藤コミッショナーは毅然とした態度で臨んで欲しいんです。僕たちが戦っているのだからNPBも逃げずに一緒になつてWBCIやMLBと戦ってほしいと思っているんです。

——ここは野球界の将来のため、引けない部分ということですね。

新井 このままだとこの先日本代表やNPBに入るべき収益が、ずっとWBCIに吸い上げられていくだけです。第1回、第2回と日本は頑張っただけですが、このまま頑張ってもただお金がアメリカに渡る状態が続くだけです。本来、日本に還元され、日本の野球の環境整備や設備投資に使われるべきお金が入ってこないままの状態が続きます。

——現在のWBCというのは一国のプロリーグが「世界大会」と銘打って開催していることと同じです。それならIBAFという世界野球連盟が間に入って真の世界大会を目指すという方法論もあります。

新井　そういう考えもありますし、動きがあるのも事実です。でもMLBの方が、かなり強いのが現実。だからIBAFが機能していないというのもまた事実。でも健全で世界で注目されるような世界大会をIBAFの主催で作っていかなければいけないですね。

——NPBに働きかけていく方向です
ね。

新井　すでにそういう方向で動いています。そのような中で、僕らの発言を受けて加藤コミッショナーが「金目の話ではない。出ないことでのファンへの損失も考えなければならぬ」とおっしゃったのは残念です。オリンピックやサッカーのワールドカップのような健全な国際大会を作って行くためわれわれは戦っているはずなのに、という気持ちがいっぱいなので本当に残念。MLBという強力な組織に向けてわれわれ日本の小さな組織である選手会が戦っているわけですからNPBや加藤コミッショナーには一緒に戦ってください、と言いたいです。

——第3回大会まで時間がありません。譲歩という選択肢は……。

新井　臨時大会で「苦渋の選択」をしたわけですから、そのようなことは考えていません。

——第4回大会に向けても同じことを訴え続けていくのでしょうか。

新井　大会の構造に異議を唱えてい

るわけですから特定の大会だけに限った話ではありません。第2回大会までは、オリンピックなきあとの国際大会としてのWBCの価値を高めることを優先して協力してきましたが、大会を重ねる毎に日本からのスポンサー収入などへの依存度がますます高くなり、問題の深刻さが増してきました。WBC IやMLBは今後も「そのうち参加するだろう」と思っているのかもしれませんが、我々にはや協力の限界だと判断して不参加の表明を行っているのです。これがIBAFが中心となって健全で公正な世界大会が産まれるきっかけになればという思いもあります。

——このままでは世界の野球がMLBに飲み込まれ、利益をすべて吸い上げられる可能性もある。

新井　その通りです。そういう構図が見えたからこそ、WBCで健全で公正な世界大会を行うのは難しいということが分かり、不参加表明をしたのです。だからWBC IやMLBに交渉で押し切られる形での出場は「ない」。苦渋の決断の分だけ、この選択は重いんです。